

九月の保育

及川ふみ

第二保育期

六十餘日の長い休暇で、幼児たちの日常生活の上で多少の變化がある。その中で身体的にもその發育の状態に影響がある。休暇中に一層健康の増進を見て、身長體重ともに一段増加したものの、或は身長のみ増して體重のさもないもの、休暇中の罹病のため發育の不充分のものなごもある。この外の點で全體としてしばらく幼稚園生活から離れてゐたため、第一期間につけた習慣も少し下り坂になるのが一般であるから、この點特に留意して早く幼稚園生活の常態に復

させる事にする。

盛夏の候は戸外の遊びも長い時間つゞけられなかつたが、秋空高きこの好時期には出来るだけ外遊びを多くしたり、雑草しげる草原に、ばつた、こほろぎ、さんばなぎ追ひあるき、遊び疲れ、ば砂場に、木蔭に、砂いぢり、草いぢりといふ様に秋の自然を満喫させたいものである。この頃になるに殊更に都會の幼児が氣の毒でたまらない。せめて時々の郊外保育によつてその短を補ひたいものである。

尙身體的方面のみならず、年少組のこの期に入れば、智能の發育程度も急速に進むのであるから自然觀察の機会を充分にさらへたい。秋の蟲、鳴く蟲、稻、果物なご材料も豊富である、保母も幼児も長い休暇中に蓄へられた力を伸すときは今日であらうから

第一週 二日——七日 保育時間 午前八時——午前十一時

第二保育期始めの集り

全園幼児一堂に集つて、お互に眞黒になつた健康な顔を並べ簡単な式をする。

火

自由遊び

園庭の雑草の間を駆けめぐつて、ばつた、こほろぎ、な

ぎの秋の蟲をおはせて遊ばせる。

秋の蟲の中でも、こほろぎは幼児と一緒に飼育するのに丈夫な蟲でよい。硝子鉢、木箱などに底に砂を入れて、雜草をしき、きうりなぎの餌を入れておく。柵の下なぎの少し蔭のまころにおくま、保育室で時々幼児たちこほろぎの聲をきかせる事が出来る。

今年の防空演習は丁度九月一日から始るので幼児たちにもこの話をして、適當の方法で練習をするまよい。

水

唱歌 コッキフレフレ

この唱歌は倉橋先生の最近の作歌になつたもので戸倉先生振付の遊戯も可愛らしいので運動會のプログラムに入れる爲新期早々する事にする。

お話 夏休み中のこま

自由畫 夏休中にあつた事。幼児たちは海に山に遊んだもの、家庭にあつたものなぎそれぐ、休み中の見たものをかゝせる。

木

遊戯 コッキフレフレ

蟲取り

金

紙仕事 花カゴ

古端書で花カゴを作る

土

唱歌 コッキフレフレ ダルマサン

ダルマサンも新作唱歌

第二週 九日—十四日

月

唱歌 コッキフレフレ、ダルマサン

遊戯 コッキフレフレ

自由遊び 園庭にて駈つこ

火

メリエ 朝顔

朝顔の花を見せて、各自好きな色にぬらせる

水

粘土 梨 クリ

自由遊び 駈つこ

木

お話

紙仕事 花カゴ

花カゴに挿す花を畫かせて 切らせる

金

唱歌 ダルマサン

遊戯

土

自由畫 庭の朝顔を寫生する

第三週 十六日——二十一日

月

お月見

お話 十五夜お月様のお話

お月様へのお供物作り おだんご、果物等

火

唱歌 幼稚園のお庭

自由畫 昨夜のお月見

水

ヌリエ お月様

自由遊び 駈っこ

木

唱歌遊戯 運動會の準備の爲當分毎日唱歌遊戯をする

勳章ツクリ(男兒のみ)

人形花子ツクリ(女兒のみ)

金

唱歌遊戯 運動會の練習

勳章ツクリ

人形花子ツクリ

自由遊び 駈っこ

土

お話 九月二十三日秋季皇靈祭の話

唱歌 遊戯

第四週 二十三日——二十八日 この週より午前九時——

午後一時三十分

月 秋季皇靈祭休日

火

勳章ツクリ

人形花子ツクリ

自由遊び 園庭の土を柔かくして秋蒔きの種まきをする

水

自由畫

けいごう、コスモスなどの秋草の寫生

木

お話 三匹の豚の子 新作

肩章ツクリ 男兒のみ

人形花子の洋服 女兒のみ

自由遊び 藤の葉柄を拾ひ集めて、おもちゃ作り

金

粘土 自由製作

土

唱歌 遊戯 運動會の練習